

# 28PA-pm069

医薬品ネット販売における配送過程での品質管理上の問題点

○林 秀樹<sup>1</sup>, 合田 和史<sup>1,2</sup>, 恵谷 誠司<sup>3</sup>, 加藤 優<sup>1</sup>, 上村 里菜<sup>1</sup>, 北夕太郎<sup>1</sup>, 岩本 理央<sup>1</sup>, 近藤 剛弘<sup>1,2</sup>, 杉山 正<sup>1</sup> (<sup>1</sup>岐阜薬大, <sup>2</sup>ファイン総合薬局, <sup>3</sup>鹿児島県薬)

【目的】一般用医薬品のネット販売が可能になり、利便性が高まるといわれる一方で、不適切な情報提供や副作用による健康被害への懸念も生じている。これまで医薬品ネット販売に関する議論は、利便性と安全性に注目が集まり、消費者への配送中における医薬品の品質保証の観点での議論はほとんどされてこなかった。本研究では、ネット販売における配送段階での環境を明らかにすることを目的に、医薬品が曝される温度・湿度を調査した。

【方法】梅雨期および盛夏期に、医薬品ネット販売で使用されている宅配便およびメール便で小型温湿度記録計を輸送し、温度と湿度を経時的に記録した。輸送は岐阜県岐阜市から鹿児島県、香川県、岐阜県内、東京都、北海道の5ヶ所との往復で行った。現在、厳冬期での検討も予定している。

【結果】宅配便での輸送中の最高温度は、梅雨期と盛夏期でそれぞれ 37.9℃と 37.3℃であり、最高湿度は同様に、91%RH と 99% RH であった。メール便での輸送中の最高温度は、梅雨期と盛夏期でそれぞれ 38.3℃と 42.4℃であり、最高湿度は同様に、87% RH と 84% RH であった。

【考察】本研究の結果から、医薬品は輸送段階で薬局方に規定された「室温」を大きく上回る高温に曝されることが明らかとなった。ネット販売を行う薬剤師や登録販売者は、医薬品の品質管理を保証できるシステムの実施と維持に努める必要がある。本研究は、我が国のネット販売における医薬品輸送中の品質管理に関する初めての調査である。安全かつ有効なセルフメディケーションを実現するためには、医薬品が消費者の手元に届けられるまでの適切な保管及び輸送について、専門家である薬剤師等が責任を持って管理する必要があると考えられる。